



成田ロータリークラブ 週報



国際ロータリー2016～17年度会長 ジョン F. ジャーム

第 2728 回例会 平成 28 年 11 月 25 日(金)

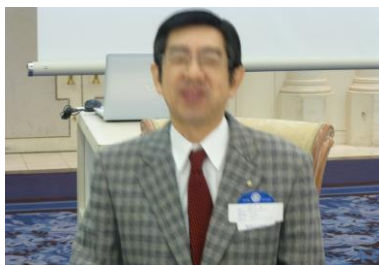
- ◇ 点 鐘 石川 憲弘 会長
- ◇ ロータリーソング 我らの生業
- ◇ 四つのテスト 伊藤 英徳 会員
- ◇ お客様紹介

成田コスモポリタンロータリークラブ

藤崎 康人 様 (卓話)

大木 裕信 様

ボーイスカウト成田第一団 大川 正芳 様



ボーイスカウト成田第一団 大川様よりご挨拶

本来ならば団委員長の篠原が来るべきところですが、成田市の所用がありましてそちらに出席しており、私がお挨拶に伺いました。ボーイスカウトは、みんなに公平に奉仕をする、社会に奉仕するをモットーに活動しており、内容的にはロータリークラブさんと似てるのかなと思います。成田一団は昭和 25 年に発足し、途中色々ありましたが昨年 50 周年を迎えました。テーブルに記念誌のあゆみを置いておきましたのでご覧ください。その中には、写真集もありますので回覧して頂けたらと思います。ボーイスカウト自体がキャンプを通じて色々なことを学び将来的にはよい社会人になるということでやっております。今年 8 月 9 日から 14 日まで富津で千葉県のカンプリングが開催されました。その時の広報誌が皆様の人数分ありますのでそれをお持ちいただければと思います。20 日は日頃できない大人の方と交流ができたこと喜んでおりましたので、これからもよろしく願いいたします。



◇ ニコニコボックス

平野 省二 会員：11 月 24 日、花崎町の愛宕神社例大祭が雪の中行われました。無事に執行でき、クラブからもたくさんの会員の方に来ていただきました。ありがとうございました。

設楽 正行 会員：平野さんは執行役員として大変苦勞されたのですが、私は初めて愛宕神社の総代ということで今年デビュー致しました。同じくニコニコさせていただきます。

小泉 英夫 会員：私も同じ町内としてニコニコさせていただきます。



◇ 会長挨拶

石川 憲弘 会長

12月は疾病予防と治療月間ですが、12月は情報研修会など予定が詰まっておりますので疾病予防と治療は今月に繰り上げさせていただきました。本日の卓話は皆さんよくご存知の医療法人鳳生会成田病院院長 藤崎康人様です。藤崎様、後程よろしくお願いたします。

先日11月20日は、単年事業であります成田ボーイスカウトとの交流会でした。団の人達とゲーム、バーベキューなど楽しいひとときを過ごしてきました。みなさんのテーブルの上に「あゆみ」50年章ボーイスカウト日本連盟の記念誌が置かれていると思いますが、その中に挨拶として「祝50周年」育成会会長 当クラブ会員の小池正昭会員が、祝辞として「50周年記念によせて」成田ロータリークラブ会長佐瀬和年会員の談話が掲載されています。又、小宮山会長時代に成田ロータリークラブより倉庫を寄贈した写真も掲載されていますのでご一読いただければと思います。また、先日の空港対策協議会勉強会には、急なお願いにも関わらず幾人かの成田クラブ会員が参加してくださいました。「成田空港の機能強化とは」と題しましての勉強会でした。首都圏の空港需要に対応していくため、新たな滑走路の整備などにより、空港の発着容量を拡大させるとともに、より利便性の高い空港にしていくことだそうです。なぜ今、成田空港の機能強化を実施する必要があるのか、当日の資料である成田国際空港株式会社リーフレットによりますと、アジアにおける厳しい空港間競争にさらされる中、成長する空港需要を取りこみ、日本の経済や社会を成長させるとともに、周辺地域の活性化を図るため。なぜならば、アジア太平洋地域における空港需要の拡大、訪日外国人の急増、2020年代、首都圏空港の発着回数は現在の処理能力を超過する予測、そしてアジアの主要空港は大規模な空港機能拡張により急速に成長していること。空港間でのネットワーク拡充に向けた路線獲得競争は、今後ますます激化すると予想されるということです。そして機能強化によって、空港機騒音の影響が大きくなるのではないかとこの心配に対しては、騒音対策をはじめとした環境対策をしっかりと行い、地域にお住いの皆様の生活環境を今後も守っていく。移転補償、防音工事、騒音測定などですね。では機能強化は私たちにとってメリットのあることなのでしょうか？という事ですが、それに対しては周辺地域への経済波及効果、雇用創出効果、税収増などが期待されますということです。機能強化に対する四社協議会（国土交通省、千葉県、空港周辺9市町、成田国際空港株式会社）については、前空港対策協議会会長豊田会員にお話を聞けたらと思います。今日の会長挨拶は、ここまでといたします。



◇ 入会式

眞々田 美智子（ままだ みちこ）会員 株式会社 エムケイハウジング 取締役
推薦人 石川 憲弘 会員、喜久川 登 会員
顧問 佐瀬 和年 会員

所属委員会 クラブ管理運営委員会
クラブ会報 担当
S. A. A.

職業分類 サービス 貸しビル

JR 酒々井駅前エムケイハウジングという不動産業をやっております。30年経ちます。佐倉の王子台で10年、酒々井で20年経ちます。昭和63年、夫の名前の頭文字

を取りましてエムケイハウジングを設立しました。私と夫だけの小さな会社です。当時夫は50歳を過ぎておりました。人の三倍働かなければ安定した生活はできないと覚悟してその通りにしました。酒々井に自社ビルを持つことができました。その時の土地の仲介してくれたのが末広産業さんです。私をロータリークラブへ誘ってくれました石川会長、直前会長の佐瀬さん、佐久間さんは倫理法人会の仲間でございます。夫を亡くして心に空洞ができ前妻の子供達との遺産相続や借金のことが色々ありまして眠れない日が続いておりました。優しく迎えてくれる倫友は私にとってとても頼もしかったです。3年前より会社は息子が社長で娘も手伝っております。嫁さんも今年から手伝っております。地域密着型のアットホームな会社でございます。現在、私は裏方に徹しております。昼は全員の昼ごはんを作り、管理物件の巡回をしております。アパートや駐車場の草取り、廃品回収など軽トラに乗って活動しております。バブルが弾けて会社もいろいろありました。平成21年、業務の効率化を図るため有限会社から今の株式会社にし賃貸物件、売却管理委託物件を移行しました。建売住宅はやめまして、土地建物の仲介、アパート賃貸を中心しております。働くことが大好きです。明るく元気な会社のお母さんでいたいと思います。成田ロータリークラブの仲間に入れていただき感謝します！よろしくお願い致します。



◇ 委員会報告

・クラブ管理運営委員会

矢島 紀昭 委員長

先般、映画監督のYUKI SAITOさんより卓話をいただきましたが、その映画が12月3日から公開されます。クラブの会員の皆様には合計で260枚、前売り券としてご協力頂きました。ありがとうございました。上映期間は12月3日から2週間ですが、3日と4日鑑賞して頂きますと、その人数によって一ヶ月延長されたり、或いはそれ以上延長されるということがございます。地元の監督が作った映画「古都」です。なるべく3日と4日に映画館に足を運んでいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。



◇ 幹事報告

吉田 稔 幹事

《回覧》

- ・週報 成田空港南、印西ロータリークラブ
 - ・例会変更 多古ロータリークラブ
 - ・ロータリー財団100周年記念シンポジウムに合わせた公共イメージ向上企画協力金のお礼
- ボーイスカウト地区協だより

《連絡》

- ・各種出欠表
- ・12月のレート106円
- ・昨日、分区ゴルフコンペは中止となりました。



歴史

- ・人痘法：紀元前 1000 年ごろインド、天然痘患者の膿を健康人に接種し、免疫を得る方法を実践。18 世紀前半にイギリス、アメリカに伝わり行われていたが、天然痘を発症する人も多かった。
- ・牛痘ワクチンを人間の天然痘に対する免疫生成に利用した。(1796 年)。症状は、軽かった。

我が国の予防接種の歴史

(戦前)

(1798 英国ジェンナーが天然痘に対する牛痘種痘法を発表)

1849 長崎に痘苗到着。日本で種痘始まる

1876 天然痘予防規則

1885 種痘施術心得書

1897 伝染病予防法

1910 種痘法開始

1938 BCG 開始

(戦後)

1948 予防接種法制定 (接種義務、罰則有り)

対象疾患：痘瘡、ジフテリア、腸チフス、パラチフス、発疹チフス、コレラ
百日咳、結核、ペスト、猩紅熱、インフルエンザ、ウイルス病

1951 結核予防法

1958 百日咳・ジフテリア混合ワクチンの使用

1962 インフルエンザワクチンの集団接種始まる

1964 ポリオ生ワクチン定期接種開始

1968 百日咳・ジフテリア・破傷風混合ワクチン (三種混合) 定期接種

1969 麻疹生ワクチン使用開始

1972 インフルエンザワクチンが H A ワクチン (現在と同じ) となる

1976 予防接種法改正 種痘定期接種中止

1977 風疹定期接種 (中学生女子) 開始

1978 麻疹定期接種 (はじめての個別接種) 開始

1980 WHO 痘瘡根絶宣言。種痘定期接種の中止

1981 おたふくかぜ生ワクチン (任意接種) 開始

1986 B 型肝炎母子感染防止事業による接種開始

1987 水痘生ワクチン販売開始 インフルエンザ予防接種率著減

1989 MMR ワクチン導入

1993 MMR ワクチン中止

1994 予防接種法改正 義務→勧奨 集団→個別、予診の強化

1994 定期接種の変更：百日咳、ジフテリア、破傷風、ポリオ、麻疹、風疹、日本脳炎
インフルエンザを任意予防接種とする

1998 感染症新法制定 伝染病予防法・性病予防法・A I D S 予防法廃止

2001 予防接種法改正

2002 結核予防法施行令改正、小 1・中 1 のツ反、BCG 再接種中止

2003 風疹予防接種経過措置

2005 日本脳炎ワクチン接種の積極的推奨の中止

MR ワクチン (風疹・麻疹) の 2 回接種

2008 H i b ワクチン

2009 ヒトパピローマウィルスワクチン

2010 結合型 7 価肺炎球菌ワクチン (P C V 7)

- 2011 ロタウイルスワクチン
- 2012 不活化ポリオワクチン
- 2013 結合型13価肺炎球菌ワクチン（PCV13）
- 2013 予防接種法改正 ワクチンギャップの是正

日本で接種可能なワクチン（定期）

（生ワクチン）

- ・BCG ・麻疹・風疹混合（MR） ・麻疹（はしか） ・風疹 ・水痘
（不活化ワクチン・トキソイド）
- ・百日咳・ジフテリア・破傷風・不活化ポリオ混合（4種混合）
- ・ポリオ ・ジフテリア・破傷風トキソイド（DT） ・日本脳炎
- ・肺炎球菌（13価結合型） ・インフルエンザ菌b型（Hib） ・B型肝炎
- ・ヒトパピローマウイルス（HPV） ・インフルエンザ（高齢者等）
- ・肺炎球菌（23価多糖体）（高齢者等）

日本で接種可能なワクチン（任意）

（生ワクチン）

- ・流行性耳下腺炎 ・ロタウイルス ・黄熱
（不活化ワクチン・トキソイド）
- ・破傷風トキソイド ・成人用ジフテリアトキソイド ・A型肝炎 ・狂犬病
- ・髄膜炎：4価

小児の予防接種スケジュール

- ・生後2カ月～12歳まで合計 のべ30回の注射が必要

予防接種（vaccination）の語源

- ・ラテン語の「牛」は vacca
- ・ワクチン（vaccine）が牛に感染する牛痘ウイルスで、天然痘より症状が軽く、治りにくく致死的な天然痘に対して免疫をある程度つけるものであったからである。

日本の予防接種

- ・定期接種
 - ・予防接種法に基づいて接種
 - ・対象年齢の接種費用は、原則、自治体による公費助成
 - ・A類疾患については、原則無料
 - ・予防接種による健康被害に対しては、予防接種法第11条による救済制度あり
- ・A類疾病
 - ・疾患の発生及び集団での蔓延の予防を目的とし、接種対象者またはその保護者に接種の努力義務がある
 - ・ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ（4種混合ワクチン）、麻疹・風疹（MRワクチン）、日本脳炎、結核（BCG）、Hib、小児肺炎球菌感染症、子宮頸がん、B型肝炎、水痘
- ・B類疾病
 - ・主に個人予防に重点。努力義務なし。
 - ・65歳以上の高齢者のインフルエンザ、肺炎球菌感染症
 - ・60歳以上65歳未満で心臓、腎臓、呼吸器に重い障害のある人、AIDSなどで免疫力が低下しているインフルエンザ、肺炎球菌感染症

- ・臨時接種
蔓延防止上、緊急の必要性があるとき行われる。
原則、公費助成
 - ・ A類疾病 接種の努力義務あり
痘瘡、(A類疾病)
 - ・ B類疾病 努力義務なし
新型インフルエンザ
- ・任意接種
 - ・ 流行性耳下腺炎、A型肝炎、成人用肺炎球菌、狂犬病、ワイル病秋やみ等のワクチン
 - ・ 定期接種の対象年齢以外に対するA類疾病もしくはB類疾病ワクチン

インフルエンザワクチン

(インフルエンザ) (別名 流行性感冒)

- ・ A型、B型、C型 RNAウイルス
- ・ 主に冬期に流行し、南半球と北半球で繰り返し流行
- ・ 平均相対湿度 50%以下で流行
- ・ 毎年世界で 300 万～500 万人が感染、25～50 万人死亡
- ・ 先進国では 65 歳以上の死亡が多い

(ワクチン)

- ・ 不活化ワクチン
- ・ 4 価値ワクチン (2015～) (それ以前は 3 価)
(A型 2 株、B型 2 株)

(インフル高リスクの人)

- ・ 65 歳以上
- ・ 慢性呼吸器疾患
- ・ 心血管疾患 (高血圧のみは除く)
- ・ 慢性腎、肝、血液、代謝 (糖尿病など) 疾患
- ・ 神経筋疾患 (運動麻痺、痙攣、嚥下障害)
- ・ 免疫抑制状態 (H I V、免疫抑制剤使用中)
- ・ 妊婦
- ・ 長期療養施設入所者
- ・ 極度の肥満
- ・ アスピリン長期投与者
- ・ 担癌患者

上記の高リスクの人は、禁忌以外では、インフル予防接種が望ましい

禁忌：発熱患者、卵アレルギー、重症疾患等

肺炎球菌ワクチン

- ・ 肺炎球菌 (正式名称：肺炎連鎖球菌)
- ・ 1881 年米国およびフランスで分離され、pneumococcus (肺炎球菌) と呼ばれた
- ・ 1974 年に Streptococcus pneumoniae と改称
- ・ 毒性：組織障害性は少ないが、強い免疫反応を生じさせる
(局所感染症)
肺炎 (市中肺炎の原因菌)、中耳炎
(全身性 (侵襲性) 感染症)
- ・ 乳幼児期：鼻咽頭から血液中に菌が侵入し、全身に拡散 (敗血症や髄膜炎) 死亡率 1.4%
- ・ 成人：気道から肺へ侵入し肺炎を起こし、全身に拡散 (敗血症や髄膜炎) 死亡率 22%

肺炎球菌ワクチン

- ・ ニューモバックス (成人用、小児用) (23 価) (1988～日本で使用)
(肺炎球菌莢膜ポリサッカライド含有肺炎球菌ワクチン) (PPSV23)

2014年10月から65歳以上対象で、定期接種（5歳刻み）

インフルエンザワクチンと併用することにより肺炎による死亡を減少させる効果がある

・プレベナー（小児および高齢者肺炎球菌ワクチン）（13価）

（無毒性変異ジフテリア毒素結合型ワクチン）（PCV13）

2013年11月から定期接種

2014年6月、65歳以上も対象者となった

PPSV23に比べ、PCV13の方が免疫原性が高いと考えられ、まずPCV13を接種し、その1年後にPPSV23の接種が推奨されつつある

侵襲性肺炎球菌感染症の高リスク者

- ・肺炎は現在死因の第3位（平成23年～）
- ・脾機能低下：無脾症（先天性・後天性） 脾機能不全
- ・免疫不全：HIV感染症、
慢性腎不全、ネフローゼ症候群
免疫抑制状態
（悪性腫瘍、白血病、リンパ腫、臓器移植）
先天性免疫不全症
- ・免疫正常：慢性心不全、慢性肺疾患、気管支喘息、糖尿病等

破傷風トキソイド

- ・破傷風菌が産生する毒素により破傷風が発症する。
- ・土壌中に広く生息
- ・予防接種は、毒素を無毒化し、ワクチンとしての接種
- ・昭和43年（1968年）以降は幼児期に定期予防接種を受けている
- ・発症者のほとんどが、45歳以上
- ・小さな傷でも汚染創であれば、発症リスクあり
- ・年間120人の患者発生報告
- ・免疫獲得には、1年間で3回の接種必要
- ・免疫獲得後、10年ごとの追加免疫が必要

以上、予防接種について、予防接種の歴史、日本の予防接種、インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチン、破傷風毒素ワクチン（破傷風トキソイド）についてお話させていただきました。皆様、今日のお話を健康に役立てていただき、予防接種を受けていただければと思います。御清聴ありがとうございました。

◇ 点 鐘 石川 憲弘 会長

出席表

会員数	出席義務者数	出席数	欠席数	出席率	前回補正
71	70	49	21	70%	68.57%

MAKE UP CARD

氏 名	月 日	ク ラ ブ 名
神崎 誠 会員	11月11日	指名委員会
豊田 磐、吉田 稔、渡辺 孝、近藤 博貴 各会員	11月11日	長期計画CLP委員会
喜久川 登、高橋 晋 各会員	11月15日	田辺はまゆうロータリークラブ
遠藤 英一、成田 温、矢島 紀昭、小泉 英夫、高橋 晋、杉浦 健 香取 竜也 各会員	11月27日	つり同好会

事務局 〒286-0127 成田市小菅 700
成田ビューホテル内
電話/FAX 0476-33-8786

例会場 成田ビューホテル
電話 0476-32-1111
例会日 金曜日 12:30
例会出欠連絡先(直通)
電話 0476-32-1192 FAX 0476-32-1078